

みんなに知って
もらいたい!

わきゃあまみ 23

奄美群島の 外来植物



ホテイアオイ



アカギ



ギンネム



トクサバモクマオウ



オオキンケイギク



ナガエツルノゲイトウ



アメリカネナシカズラ



コセンダングサ



ムラサキカッコウアザミ

はじめに

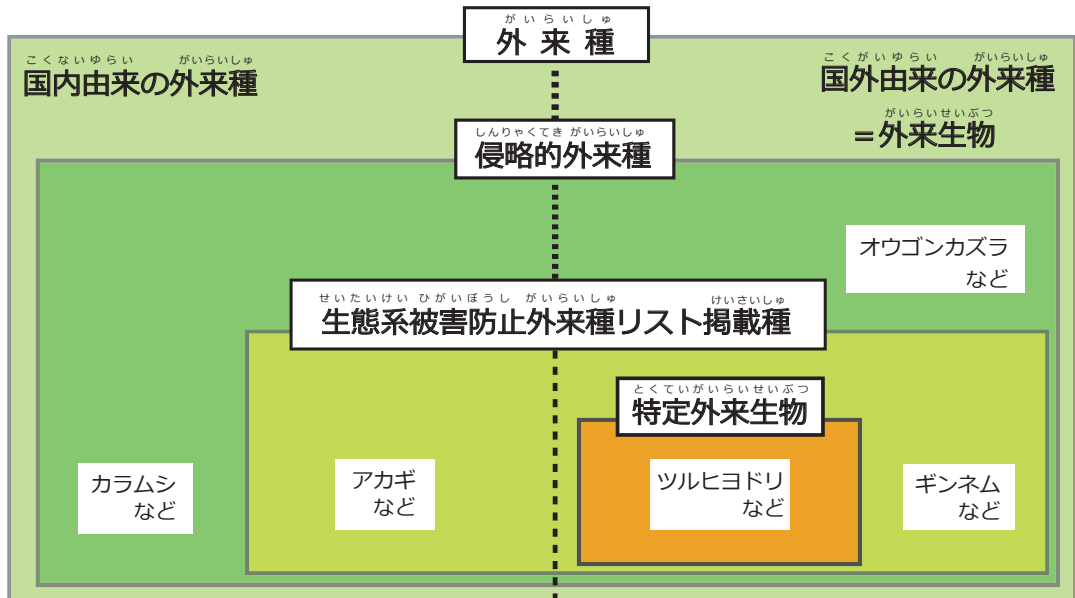
わたしたちの住む奄美群島には、奥深い常緑の森やマングローブ、サンゴ礁など素晴らしい自然がたくさんあります。また、その自然の中には世界でもここでしかみられないような、めずらしい生きものがたくさん住んでいます。しかし、この豊かな自然を未来に残すためには、取り組むべきいろいろな課題があります。外来種問題もそのひとつ。

わきゃあまみ 23 を活用して、外来種について学び、その問題について考えてみましょう。

外来種とは？

外来種とは、もともと住んでいなかった地域に私たち人間によって持ちこまれた生きもののことです。日本全体で 2,000 種類以上の外来種がいるとも言われています。

外来種には農作物、家畜、ペットなど私たちの暮らしにかかせない外来種もありますが、自然や人の体、農業などに大きな影響をあたえるものもいて、これらを特に「侵略的外来種」とよびます。



侵略的外来種とは？

1. 奄美群島の生態系への影響

ざいらいしゅ (もともとその地域にいる生物) を食べる

例：ファイリマングース

ハブなどをたいじするために持ちこまれたが、ウサギなどを食べてしまう。



近い仲間の在来種と雑種を作る

例：テッポウユリ (在来) とタカサゴユリ (外来)

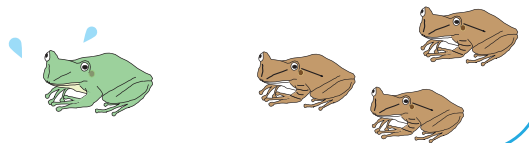
シンテッポウユリという雑種ができてしまいます。



在来種のすみかを奪ったり、えさを奪い合ったりする

例：シロアゴガエル

アマミアオガエルなどに影響をあたえてしまう可能性があります。



2. 人の生命・身体への影響

毒を持っている

例：セアカゴケグモ

沖縄永良部島では生息が確認されています。



人をかんだり、さしたりする

例：カミツキガメ

奄美大島で見つかったことがあります。



3. 農業などの産業への影響

農作物を食べる

例：アフリカマイマイ

見かけても絶対にすでさわらないように！



畑を荒らす

例：ニホンジカ

喜界島ではひがいが出しています。



とくていがいらいせいぶつ 特定外来生物とは？

外来生物法という法律では侵略的外来種のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業などに特に大きな被害をあたえるもの（またはあたえる可能性のあるもの）を「特定外来生物」として指定しています。

※特定外来生物は、取り扱いが法律できびしく決められています。

国内の特定外来生物は令和2年11月2日時点で156種の指定があります。

外来生物法により次のことは禁止されています



- 飼う、育てる
- 運ぶ
- 売る、買う、あげる、もらう
- 外にすてる、放す



外来生物法については
こちらから

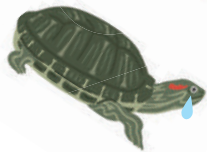


特定外来生物の一覧は
こちらから

がいらいしゅ 外来種は悪者？？

外来種問題は人間が原因で起こった問題です。外来種が狩りをしたり、在来種をおいやりたりするのはその場所で生きのびるためです。つまり、持ちこまれた外来種もまた被害者なのです。

だからこそ、外来種問題はわたしたち人間が責任を持って取り組んでいかなければいけない問題のひとつなのです。



ペットを飼うとき、
植物を育てるときは
最後まできちんと責
任を持って世話をし
よう！



図鑑の見方

P5～P13の見方

とく 特ちょうがにているなかまを「科」といいます。
とくていがいらいせいふつ 特定外来生物には **特定** しるし 印がついています。

名前

● オオフサモ (アリノトウグサ科) みづべ 水辺にまとまって生える

特定



葉の付け根にある白く小さなものが花。
◀ (写真赤丸)
目立たないため咲いていても気がつかない。



◀ 茎の切れはしからも芽が出て再生してしまうほど、生命力が強い。

どこから来たの？

原産地：南アメリカ



亀	加	請	与路
喜	徳	冲	与



奄美群島での花がさく時期。

水そうの水をきれいにする目的で持ちこまれた水草。野外でもとてもよくふえるので、放っておくと水面を覆ってしまい、水辺の在来植物をおいやってしまう。河川や水路をふさいでしまうこともある。また、光をさえぎり水中の環境を悪くしてしまう。

植物の特ちょうや
えいきょう 影響など

外来植物をくじよするのは、種ができる前が適しているよ！
🌸 カレンダーをさんこうにしてね！



記ろくのある島をオレンジ色でぬりつぶしている

※ 侵入が確認されている島 【島】

奄：奄美大島 加：加計呂麻島
請：請島 与路：与路島
喜：喜界島 徳：徳之島
冲：冲永良部島 与論：与論島

オオフサモ (アリノトウグサ科) みずべ 水辺にまとまって生える

特定



葉の付け根にある白く小さなものが花。
(写真赤丸)
目立たないため咲いていても気がつかない。



茎の切れはしからも芽が出て再生してしまうほど、生命力が強い。

げんさんち
原産地：南アメリカ



奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



水そうの水をきれいにする目的で持ちこまれた水草。野外でもとてもよくふえるので、放っておくと水面を覆ってしまい、水辺の在来植物をおいやってしまう。河川や水路をふさいでしまうこともある。また、光をさえぎり水中の環境を悪くしてしまう。

ボタンウキクサ (サトイモ科) べつめい 別名「ウォーターレタス」

特定



葉の付け根にある白く小さなものが花。
目立たないため咲いていても気がつかない。

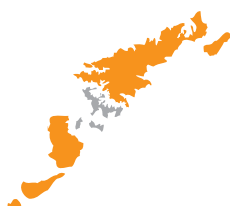


ボタンウキクサで水面を埋めつくされた水路。こうなるとくじよは大変。

げんさんち
原産地：南アフリカ？ ※奄美ではほぼ1年中開花



奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



観賞用、水そうや池などの水をきれいにする目的で持ちこまれた水草。日当たりの良い水面を好む。茎から出した枝に子株をどんどん付けてふえ、水面を覆ってしまうため、水辺の在来植物をおいやるなどの影響がある。光をさえぎり水中の環境を悪くしてしまう。

特定



日当たりが良いと写真のように在来植物をおいやり、一面オオキンケイギクで覆われる。

にた花を咲かせる植物もあるが、葉っぱの形で見分けられる。

葉は細長いへらのような形



原産地：北アメリカ



奄	加	請	与路
喜	徳	冲	与



きれいな黄色い花を咲かせるので、園芸目的で持ちこまれた。葉の両面にたくさんの毛が生えているので、触るとざらざら。川原や海岸、道路わきや空き地など、日当たりの良い場所でひろがり、在来植物の生育に影響をあたえる。よく道ばたなどで咲いているのを見かける。

ツルヒヨドリ (キク科)

茎は1日で10cmも成長することもある！

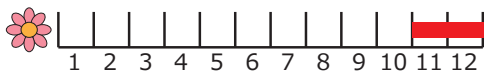
特定



白い小さな花がまとまって咲く。

茎には小さな毛がたくさん生えている。

原産地：熱帯アメリカ



奄	加	請	与路
喜	徳	冲	与

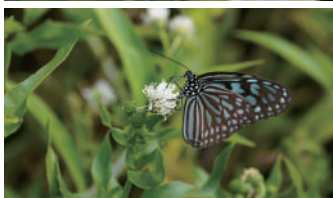


日本では沖縄県で最初に発見。アメリカ軍の持ちこんだ土に種がまぎれていたようだが、くわしくは分らない。フチが波うったハート形の葉が特ちょうの大型つる植物。他の草木に巻き付いて周りを覆いつくし日光をさえぎることで他の植物の生育に影響をあたえる。

特定



白い糸のような花を咲かせる。



さまざまな昆虫が蜜を求めてやってくる。
写真はリュウキュウアサギマダラ。

原産地：北アメリカ



奄	加	請	与路
喜	徳	冲	与



観賞用や池などの水をきれいにする目的で持ちこまれたが、野外ににげ出した。川や池などの水辺に生え、はん殖力が強く在来植物をおいやってしまう。植物の受粉に重要な働きをするチョウやハチなどの昆虫がこの花にたくさん集まってしまう、在来植物の受粉にも大きな影響をあたえる。

ナガエツルノゲイトウ (ヒユ科)

茎の切れはしからも再生するほど強い

特定



本種の葉

上：本種の花

下：シロツメクサの花



シロツメクサの葉

原産地：南アメリカ



奄	加	請	与路
喜	徳	冲	与



観賞用に持ちこまれたようだが、よく分かっていない。川や池などの水辺を好むが、道ばたや空き地などにも生える。花はシロツメクサ(クローバー)ににているが、葉の形がちがう。日当たりの良い水辺では水面を覆い尽くすほどふえ、在来植物をおいやする。小さな茎のかけらからも再生する。

アカギ (コミカンソウ科)

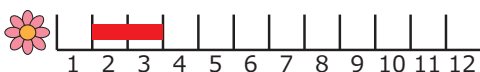
おきなわけん ぞいらいしゅ
沖縄県では在来種だけど、奄美では外来種



アカギの花。
緑の小さな花をか
たまって咲かせる
ため、あまり目立
たない。
アカギはオスの木
とメスの木があ
る。

葉は特ちょう的な
形をしており、表
面はデカデカして
いる。

原産地：東アジア～オーストラリア、沖縄



奄	加	請	与路
喜	徳	冲	与



高さが 25m ほどにもなる木で、風よけとし
て、また公園や校庭に植えるために持ちこま
れたものがひろがった。街路樹として道路わ
きに植えられることもある。根っこなどから
他の植物の生育をじゃまする物質を出し、在
来植物に影響をあたえる。

トクサバモクマオウ (モクマオウ科)

まつ松ににているけど、まつじゃない

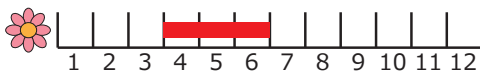


茶色っぽい雄花
(右)、ベに色の
雌花(左)。



海岸の砂浜までひ
ろがっている様子
(写真の赤丸)。

原産地：東アジア～オーストラリア北部



奄	加	請	与路
喜	徳	冲	与



松の葉っぱのように見えるのは、葉ではなく小
枝。奄美では海風をよけるために植えられたた
め、海岸沿いでよく見かける。はん殖力が強く、
砂浜までひろがり、在来植物をおいやる。また、
砂浜がせまくなることでウミガメやアジサシの
産卵場所までうばっている。

セイタカアワダチソウ (キク科)

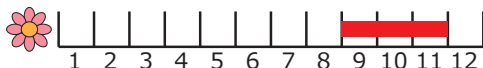
かん 乾そうして開けた場所が好きな背の高い植物



奄美でも、道ばたでかたまっているのをよく見かける。

花の後、写真のようなわた毛ができ、風で飛ばされてひろがる。

原産地：北アメリカ



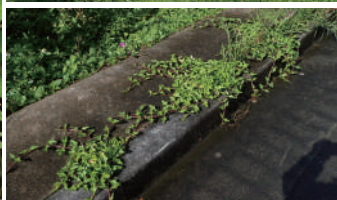
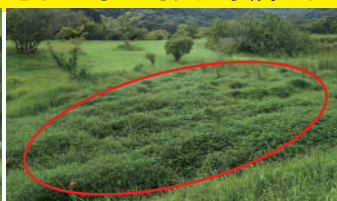
奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



日本へはミツバチの工サや園芸目的で持ちこまれた。大きなものは高さ3mにまで成長する草本。はん殖力が強く、在来植物をおいやるだけでなく、根っこから他の植物の生育をじゃまする物質を出す。道ばたや空き地などでまとまって生えているのをよく見かける。

アメリカハマグルマ (キク科)

花がきれいなので、かり残されることもある



本種に覆い尽くされた湿地（写真の赤丸）。

コンクリートの割れ目から生え、ひろがるほど強い植物。

原産地：南アメリカ北部



奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



奄美や沖縄へは芝生のように地面を覆う目的で持ちこまれたり、園芸用に植えられたものがふえた。葉はたくさんの毛で覆われているので触るとざらざら。地面をはうようにひろがる。ちぎれた茎でも根っこを出してふえるので在来種をおいやってしまう。

オウゴンカズラ (サトイモ科) べつめい 別名「ポトス」。巻き付いた木をしめ殺すことも・・・

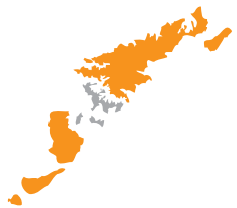


木に巻き付いている様子。奄美では、大きく成長したものが木や建物に巻きついているのをよく見かける。

原産地：東南アジア ※ほとんど開花しない

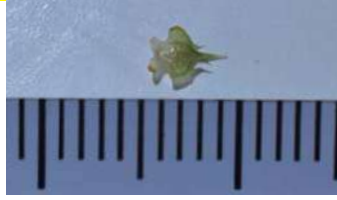


奄	加	請	与路
喜	徳	冲	与



観葉植物としてふつうに売られていたものがすてられたりして、野外でふえた。葉には白いまだら模様があり、ときには切れこみも入る。室内においてあるうちは小さな葉だが、野外に出るととても大きくなる。大きな葉で光をさえぎり、他の植物の生育をじゃましてしまう。

メリケントキンソウ (キク科) いた 実のとげはささると痛い！



実は小さく、するどくかたいトゲが生えている。



芝生のように、地面を埋め尽くすようにしてひろがる。

原産地：南アメリカ



奄	加	請	与路
喜	徳	冲	与



学校の校庭や公園など、日当たりの良い場所で地面に張り付くように生える。実にあるトゲは、分厚い靴底を通すほどかたくてそのため、公園などでケガをする原因にもなる。かたまって生えるため、同じような場所に生える在来植物をおいやっている。

アメリカネナシカズラ (ヒルガオ科)

根っこも葉っぱもない寄生植物



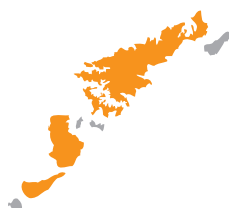
直径数ミリの小さな白い花をたくさん付ける。

発芽するとツルのをばし、他の植物に巻き付いて寄生し、えいよう分をすい取ってしまう。

原産地：北アメリカ



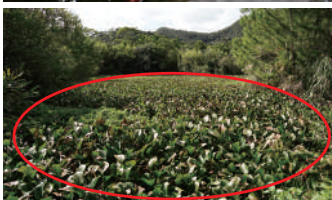
奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



寄生する相手の植物を見つけると、からみついてくっつく。輸入された大豆や小麦などに種がまぎれこんで日本中にひろがった。在来植物や畑の作物などに影響をあたえるやっかいもの。草刈りしても、茎のかけらからも再生する。草刈り機に付いたまま別の場所に運ばれてひろがることもあるので注意が必要。

ホテイアオイ (ミズアオイ科)

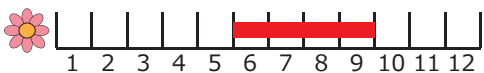
葉のふくらみは七福神の布袋さんのおなかのよう



本種はランナーとよばれる横に伸びる茎から子株をつくり、よくふえる。子株は親株と全く同じ遺伝子で、クローンとよばれる。

日当たりが良く、流れが弱ければ水面を埋め尽くすまでふえる。写真の赤丸は全て本種。

原産地：熱帯アメリカ



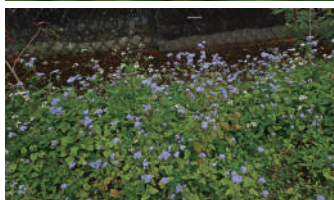
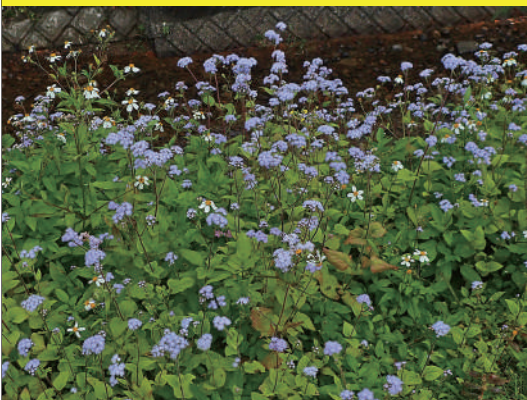
奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



水そうや池の水をきれいにする目的やメダカの産卵用として持ちこまれた水草。葉の間から茎を伸ばして紫色の大きな花を咲かせる。種でふえるだけでなく根元から枝を出してどんどん子株を作る。ふえすぎると、水辺の在来植物の生育をじゃましてしまう。

ムラサキカッコウアザミ (キク科)

林道や川原などにも分布かく大中！



紫色の細い糸のよ
うな花を咲かせ
る。

川沿いの道ばたで
ひろがっている様
子。

原産地：熱帯アメリカ

※奄美ではほぼ1年中開花



奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



園芸種として売られていたものが野外でひろ
がった。種は風で運ばれたり、小さなトゲで
人や動物にくっ付いてひろがる。根っこなど
から他の植物の生育をじゃまする物質を出
す。人里だけでなく林道でもひろがり、在来
植物に影響をあたえている。

シチヘンゲ (クマツツラ科)

別名「ランタナ」で売られる園芸植物



日ごとに花の色
が変化していく
ため、同じ株で
もカラフルにい
ろどられる。

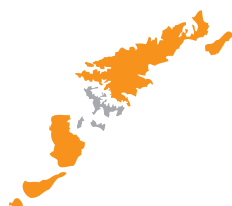
花の後、黒い実
がなる。中どく
になる可能性が
あるので食べな
いように！

原産地：南アメリカ

※奄美ではほぼ1年中開花



奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



日本へは江戸時代に園芸目的で持ちこまれ
た。「シチヘンゲ」という名前は、花の色が
日ごとに、黄色→だいたい色や、黄色→ピン
ク色→クリーム色などにかわることから。集
落の生け垣や民家の花だんから、特に海岸近
くでひろがり、在来植物に影響をあたえてい
る。

ギンネム (マメ科)

マメの実をたくさん付け、とても早く成長する



白い小さなボール状の花を1年中咲かせる。



花を咲かせた後にできる実は土の中で10～20年も生きのびる。

原産地：中央・南アメリカ～太平洋の島々



奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



家畜のエサや肥料、生け垣などで植えられたものが野外でひろがった。道ばたや空き地で1番よく見かける木。かたいコンクリートも割って成長し、高さは10mにもなる。はん殖力が強く、在来植物をおいやっている。

センダングサのなかま (キク科)

いちばんよく見かける外来植物のひとつ



花は種類によって大きさ・色などが違う。写真は3枚ともオオバナノセンダングサ。



花を咲かせた後、写真のような小さなトゲの生えた種を付ける。この種は服などによくひっ付くので「ひっつき虫」とよばれることもある。

原産地：北アメリカ・ユーラシアなど

※奄美ではほぼ1年中開花



奄	加	請	与路
喜	徳	沖	与



奄美ではタチアワユキセンダングサ（オオバナノセンダングサ）やアメリカセンダングサなどが、島じゅうの道ばたや空き地、荒れ地を覆い尽くしているところを見かける。トゲのある種が人や動物にくっ付いてひろがり、在来植物をおいやっている。

外来植物のくじょ活動

奄美^{ゆた}の豊かな自然を守るため、自治体や環境省^{じちたい かんきょうしょう}が中心となって外来植物のくじょが積極的^{せっきよくてき}に行われています。最近では地域^{ちいき}の方々、民間団体^{みんかんだんたい}、小中学校なども外来植物のくじょに協力^{きょうりやく}してくれることが多くなっています。島にいる私たちみんながいっしょになって、奄美^{せたいいけい}の生態系を守っていきたいですね。

しかし、外来植物のくじょは1回の作業では終わりません。その生きものの特性^{とくせい}を知ったうえで、計画的にくり返し作業していかないと、無くすことはできません。またくじょに優先度^{ゆうせんど}をつけて、対策^{たいさく}できるとよいです。またそれぞれの地域^{ちいき}でどのような対策・作業^{たいさく}を行ったか、きちんと記録^{きろく}を残^{のこ}していくことが大切です。記録^{きろく}を残^{のこ}すことで、べつの場所やしょうらいのくじょ活動に役立ちます。



▶ ボタンウキクサ
くじょの様子



▶ オオキンケイギク
くじょの様子

外来植物のくじょ方法

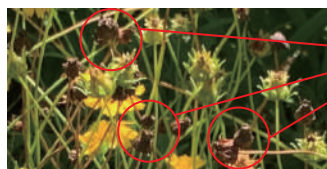
- ① 根^くっこや茎^{のこ}を残さないように
ていねいに取りましょう。



◀ もう生えてこない
ように！

▶ たね
種をまき散らさ
ないように！

- ② くじょ作業は種^{たね}の付いていな
い時期^{じき}に行いましょう。



- ③ くじょした植物^{ふくろ}は袋^かに入れて枯^{しほ}らすかゴミ処
理^{りじょう}場に持って行きましょう。



◀ 最後までしっ
かりと！

奄美大島の外来植物
対策優先度リストは
こちらから ▶



奄美大島ではくじょ
する植物に順番^{しゅんばん}をつ
けたよ。



外来種被害予防 3 原則

がいらいしゅ もん だ い ふ せ
～外来種問題を防ぐために～

①. 入れない

むやみに日本国内に外国の生きものを入れない。

②. すてない

か
飼っている外来生物（ ミシシippia アカミミガメやアメ
リカザリガニなど ）を絶対（ぜったい）に野外にすてない。

③. ひろげない

野外にすんでいる外来生物をほかの場所へひろげな
い、移動（いどう）させない。

特定外来生物を見かけたら

もし奄美群島で特定外来生物を見かけた場合、むやみにさわらず、写真と
位置情報（い ち じ ょ う ほう）をお近くの市町村役場もしくは、奄美野生生物保護センター
☎0997-55-8620（RO-AMAMI@env.go.jp）に連絡してください。

参考文献：

奄美大島の外来植物 その特徴と取り扱いに関する私見（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター 鈴木英治）、沖縄の外来植物と米軍（毎日新聞）、鹿児島県の維管束植物分布図集 - 奄美群島版 -（鹿児島大学総合研究博物館）、帰化 & 外来植物見分け方マニュアル 950 種（秀和システム）、緊急対策外来種 アメリカハマグルマ（環境省 那覇自然環境事務所）、この植物を植えたり掘けたりすることは禁止されています（環境省 九州地方環境事務所）、侵入生物データベース（国立環境研究所）、ツルヒヨドリ防除マニュアル（鹿児島県）、徳之島の外来種（環境省 徳之島管理官事務所）、日本の外来生物（一般社団法人 自然環境研究センター）、農村工学研究部門メールマガジン第 146 号 ホテイアオイ（農研機構）、野の花賛歌（hanamist.sakura.ne.jp/）、ボトス（オウゴンカズラ）防除マニュアル（鹿児島県）、三河の植物観察（<https://mikawanoyasou.org/history/profile.htm>）、琉球弧植物図鑑（南方新社）

2024 年 3 月発行

制作：奄美自然体験活動推進協議会・環境省奄美野生生物保護センター

監修・写真協力：原千代子氏（奄美の自然を考える会）